

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

那覇市長 宛	令和 8 年 9 月 18 日
	団体名 沖縄県島嶼ケアコミュニティ
	代表者 吉松 優歩
	担当者

1.事業名	避難所運営体験プログラム	
2.実施内容	(何をいつ実施したか(事務局会議は除く)、対象者や実施場所など) 6月21日 恩納村福祉避難所の合同練習会に参加。災害発生時の福祉避難所に、村民が避難してきたという設定で、リアル訓練に参加。8月31日 学生主体でスムーズに避難所を運営できるように、体育館のゾーニング、事前練習会の計画作りを行った。9月3日 5月から使用申請していた本学の体育館使用許可が下りた。実施場所がないと、活動を進めることができないため、大学の学務課に何度もお願いし会場を確保した。9月8日 運営(学生向けの)事前練習会のポスター作成と、参加フォームの配信を行った。	
3.事業を一言で表現すると	(例：生活困窮世帯に食糧を配布することで、対象者が安定して食事が取れるように支援する。) — — — 避難所運営を体験 — — — — — することで — — — 災害時に地域で助け合い行動する力を身につける — — — — — 。	
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 避難所運営プログラムの開催に向け運営として開催日時の設定、プログラム内容の検討、プログラム実施に伴う安全管理・必要物品・経費などについて計画を遂行しており、施設利用許可書の取得や消防署・保健所の安全管理相談を行い実施の許可を得られた。	【改善点・今後につなげる点】 運営の計画・行動スケジュールが遅れてしまい、提出書類などの準備期間が短く参加者への声掛けが遅れてしまった。今後の運営では余裕をもって準備・計画に当たれるようスケジュール管理を見直していく。

5.今後の活動予定 (事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定)	(何をいつ実施するか、対象者や実施場所、など) 10月6日～10月9日にチラシの印刷・配布およびSNSを活用した広報活動を行い、沖縄県立看護大学の学生や関係者等へ参加を呼びかける。10月、11月には、対面による勉強会を実施し、避難所運営に関する知識や役割について参加者間で共有するとともに、沖縄県立看護大学の体育館を実際に使用し本番を想定した模擬実施を行うことで、避難所設営・運営の流れを確認し、課題や改善点を整理する。これらの準備を踏まえ、12月26日に沖縄県立看護大学において、学生等を対象とした避難所運営プログラムを実施する。	
6.活動写真 (簡単な説明文を記入)	 (恩納村の福祉事業所との災害時リアル訓練)	 (事前練習会のポスター作製)
7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)	・地域住民との連携を強化する ・避難所における課題を具体的に理解する ・医療系学生の実践的対応力を向上させる ・参加者の避難所に対する理解が深まり、防災意識を高める	
8.現時点の目標達成度 (例：60%達成)	20%達成	